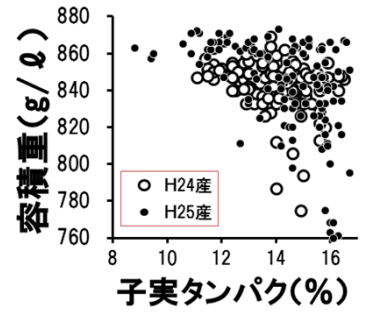
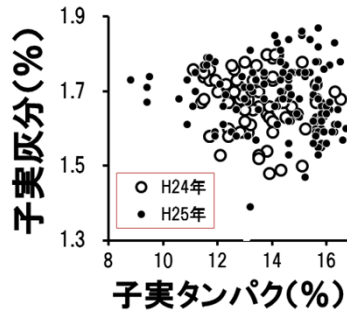


「ゆめちから」の品質変動とブレンド粉の加工適性

現地ほ場の「ゆめちから」子実タンパク

収穫年次	子実タンパク 平均値
平成24年	14.2%
平成25年	14.8%
2カ年平均	14.5%



現地ほ場の子実タンパクと灰分・容積重の関係

- 「ゆめちから」の子実タンパクは、平均で14.5%と高い。
- 子実タンパクの変動と子実灰分・容積重の変動に、直接的な関係はない。

「ゆめちから」子実タンパクとブレンド粉のパン加工適性の関係

ランク区分	「ゆめちから」子実タンパク 範囲	ブレンド粉の 「ゆめちから」 割合	吸水性	作業性	製品評価			総合点
					体積	外観	内相	
基準値より 低	11.5%未満	2割	×	◎	○	×	×	20
		4割	×	○	×	×	×	-5
		6割	×	△	×	△	△	5
		8割	○	×	×	△	△	15
基準値内	12~13%	2割	×	◎	○	×	×	20
		4割	×	○	◎	△	△	40
		6割	△	○	◎	○	△	60
		8割	○	×	○	◎	△	50
基準値より 高	14%を超える	2割	×	○	△	×	×	5
		4割	×	◎	○	○	○	60
		6割	△	○	○	○	○	65
		8割	◎	△	○	◎	○	75
基準値より 高	14%を超える	2割	×	◎	◎	×	×	25
		4割	×	○	◎	○	△	50
		6割	△	○	◎	○	○	70
		8割	◎	○	◎	◎	◎	95

×劣る △やや劣る ○良い ◎優れる

- 子実タンパクが高いほど、パン加工適性は優れる。
- パン加工適性上、子実タンパクは最低13%以上必要。
- ブレンド割合では、「ゆめちから」：「きたほなみ」=6：4~8：2で評価が高い。

「ゆめちから」栽培における当面の目標

- 現地の実態・加工適性から、子実タンパク14.0%を目指す場合の各形質の目標値を示した。



目標形質	目標値	備考	
基本形質	子実タンパク	14.0%	13.0~15.5%の範囲を逸脱しないこと
	子実収量	600kg/10a	570~640kg程度の収量が期待できる
	成熟期N吸収量	17kg/10a	子実タンパクの高位安定化に重要
栽培形質	穂数	600本/m ²	超えると倒伏のリスクが高まり、品質低下の懸念がある
	稈長	75cm未満	